

第三者評価結果入力シート（児童心理治療施設）

種別	児童心理治療施設
----	----------

①第三者評価機関名

社会福祉法人 和歌山県社会福祉協議会

②評価調査者研修修了番号

SK2021211
S2022075

③施設名等

名称	児童心理治療施設 みらい
施設長氏名	衣斐 哲臣
定員	暫定定員29名 措置人数23名 一保委託1名
所在地(都道府県)	和歌山県
所在地(市町村以下)	和歌山市つつじが丘7丁目2-1
TEL	073-460-8058
URL	http://www.torafusugakuen.jp/
【施設の概要】	
開設年月日	2009/4/1
経営法人・設置主体(法人名等)	社会福祉法人 虎伏学園
職員数 常勤職員	25名
職員数 非常勤職員	
有資格職員の名称(ア)	臨床心理士
上記有資格職員の人数	4名
有資格職員の名称(イ)	児童指導員
上記有資格職員の人数	8名
有資格職員の名称(ウ)	保育士
上記有資格職員の人数	5名
有資格職員の名称(エ)	看護師
上記有資格職員の人数	1名
有資格職員の名称(オ)	栄養士(兼務)
上記有資格職員の人数	1名
有資格職員の名称(カ)	調理師
上記有資格職員の人数	2名
施設設備の概要(ア)居室数	児童居室16部屋 定員30名 総居室面積225.385㎡
施設設備の概要(イ)設備等	大舎、静養室、心理療法室各2部屋
施設設備の概要(ウ)	親子訓練室
施設設備の概要(エ)	施設内に分校を併設(小学校、中学校)

④理念・基本方針

<p>【理念】わたしたちは、すべての生命の尊厳を基軸に、子ども一人ひとりの思いに寄り添い、人と人との関わりを大切に社会性を養い「生きる力」を育みます。</p> <p>【基本方針】1. 複合施設の特徴を発揮出来る様に児童養護施設「つつじが丘学舎」、児童心理治療施設「みらい」、児童家庭支援センター「きずな」の持つ機能を有機的に活用する複合的な運営を行う。2. 社会的・家庭的養護を担う施設として、可能な援助方法の確立と心理的ケアと連携した専門技術の確立を図る。3. 福祉、心理、医療、教育のチームアプローチによる総合環境療法の中で情緒的に行き詰まりを抱えている子どもとその家族に対して総合的、多面的に援助を行う。</p>

⑤施設の特徴的な取組

<p>1. 児童心理治療施設として、心理治療、学校教育、生活指導等、家族から離れ社会的養護の場で生活する子どもに対し、福祉、心理、医療、教育の協働による総合環境療法の場として、子どもの成長を促し家庭復帰や自立に向けた支援・治療を総合的、多面的に行っている。2. 児童指導員、保育士、臨床心理士、医師、看護師、栄養士の各専門職が連携して、子ども達それぞれの課題に個別に対応し、家庭や社会で自分らしく生きていけるよう支援している。3. 敷地内に小中学校の分校が設置され、児童心理治療施設みらいと連携を密に子どもに応じた教育を行っている。</p>
--

⑥第三者評価の受審状況

評価実施期間(ア)契約日(開始日)	2023/7/6	
評価実施期間(イ)評価結果確定日	2024/3/27	
前回の受審時期(評価結果確定年度)	令和元年度(和暦)	

⑦総評

◇特に評価が高い点

1. 福祉、医療、心理、教育の協働による総合環境療法の中で、発達障がいや愛着障がい等、心理的困難やトラウマを抱えている子どもの生活支援と共に、心理療法を行う県内唯一の施設としての重い使命を担った、治療・支援に取り組まれている。
2. 施設内に小中学校の分校が設置され、連携を密にした治療・支援に取り組まれている。
3. 各専門職が連携して子ども達それぞれの課題に個別に対応し、家庭や社会で自分らしく生きて行けるよう、職員は真摯に子どもと向き合い寄り添い、きめ細かな対応が出来ている。
4. 敷地内に児童養護施設や児童家庭支援センターを併設した複合施設であることから、児童心理治療施設はそれらと緊密に連携し、入所児童や退所後のアフターケアなどへの対応に、有機的に活かされた取組ができています。

◇改善が求められる点

1. 評価結果で明らかになった課題等について、改善や必要に応じて改善計画の見直しを行う等、更なる取組を望みたい。
2. 人事基準の明確化、ローテーション、異動等について、客観的な基準によりトータル的な人事マネジメントを行い、職員の育成に向けた取組を望みたい。
3. 災害発生時において、治療・支援を継続するために事業継続計画（BCP）を定め、必要な対策や訓練等を行うよう望みたい。

⑧第三者評価結果に対する施設のコメント

第三者評価を受審するに先立って、事前に職員とともに行った施設運営にかかる記録や資料の準備および多岐にわたる評価項目のチェック作業等は、施設全体を俯瞰するとともに日ごろの活動を見つめなおす貴重な機会となりました。当日は、記録および資料の閲覧、施設視察、聞き取り、評価項目ごとの質疑などが対話的に行われ、全般的に高い評価をいただきました。この高評価は、日頃の職員の意識と尽力によるものと受け止めます。さらに、法人の施設運営および子どもに対する治療・支援の取組、また各種マニュアルの策定なども評価された点であると思います。一方、評価調査者の言葉にもありましたが、第三者評価は、組織のあら探しなどではなく組織の自浄機能を含め職員全員が施設および自らの活動を見直し改善の手がかりをチェックする機会であると考えます。高評価に満足することなく、指摘された災害時の事業継続計画の策定や各種マニュアルの見直し、日頃の子どもの対応姿勢など、引き続きいっそうの取組を行ってまいります。第三者評価機関の受審は3年ごとですが、求められている毎年の自己評価について施設内で実施してまいります。

⑨第三者評価結果（別紙）

第三者評価結果（児童心理治療施設）

共通評価基準（45項目） I 治療・支援の基本方針と組織

1 理念・基本方針

(1) 理念、基本方針が確立・周知されている。		第三者 評価結果
①	1 理念、基本方針が明文化され周知が図られている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念、基本方針が法人、施設内の文書や広報媒体(パンフレット、ホームページ等)に記載されている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念は、法人、施設が実施する治療・支援の内容や特性を踏まえた法人、施設の使命や目指す方向、考え方を読み取ることができる。	○
	<input type="checkbox"/> 基本方針は、法人の理念との整合性が確保されているとともに、職員の行動規範となるよう具体的な内容となっている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、会議や研修会での説明、会議での協議等をもって、職員への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針は、わかりやすく説明した資料を作成するなどの工夫がなされ、子どもや保護者等への周知が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針の周知状況を確認し、継続的な取組を行っている。	
【判断した理由・特記事項等】		
理念、基本方針が明文化され、職員が集まる会議室、外部者が参集する地域交流スペース、ホームページ、学園パンフレット等に記載し、職員に対しては年度初めに会議等で説明し周知に努めている。		

2 経営状況の把握

(1) 経営環境の変化等に適切に対応している。		第三者 評価結果
①	2 施設経営をとりまく環境と経営状況が的確に把握・分析されている。	b
	<input type="checkbox"/> 社会福祉事業全体の動向について、具体的に把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域の各種福祉計画の策定動向と内容を把握し分析している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの数・子ども像等、治療・支援のニーズ、潜在的に支援を必要とする子どもに関するデータを収集するなど、施設(法人)が位置する地域での特徴・変化等の経営環境や課題を把握し分析している。	
	<input type="checkbox"/> 定期的に治療・支援のコスト分析や施設入所を必要とする子どもの推移、利用率等の分析を行っている。	○
【判断した理由・特記事項等】		
心理的困難やトラウマを抱える等の入所児童に、人権、権利を守りながら家庭や地域との繋がりを視野に入れた治療・支援や、心理治療を行う特別な社会的養護環境を提供し、県内唯一の施設としての経営が行われている。今後、経営環境や課題を把握し分析した取組が期待される。		
②	3 経営課題を明確にし、具体的な取組を進めている。	a
	<input type="checkbox"/> 経営環境や治療・支援の内容、組織体制や設備の整備、職員体制、人材育成、財務状況等の現状分析にもとづき、具体的な課題や問題点を明らかにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、役員(理事・監事等)間での共有がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> 経営状況や改善すべき課題について、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 経営課題の解決・改善に向けて具体的な取組が進められている。	○
【判断した理由・特記事項等】		
措置費単価の据え置き等による収入に比べ、物価高騰や人件費等の支出増等による経営上の苦慮があり、税理士等の専門家の助言を得る等、運営委員会で協議の上職員に対し説明する等、共有及び透明性は確保されている。		

3 事業計画の策定

(1) 中・長期的なビジョンと計画が明確にされている。	第三者 評価結果
<p>① 4 中・長期的なビジョンを明確にした計画が策定されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 中・長期計画において、理念や基本方針の実現に向けた目標(ビジョン)を明確にしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 中・長期計画は、経営課題や問題点の解決・改善に向けた具体的な内容になっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 中・長期計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 中・長期計画は必要に応じて見直しを行っている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
【判断した理由・特記事項等】	
中・長期的なビジョンと計画については2029年まで明確に策定されており、且つ、一部見直しの軌道修正も行う等の対応ができています。今後、物価高騰等の面より、資金面等苦慮する中での具体的な成果等を設定するなどの取組が期待される。	
<p>② 5 中・長期計画を踏まえた単年度の計画が策定されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度の計画(事業計画と収支予算)に、中・長期計画(中・長期の事業計画と中・長期の収支計画)の内容が反映されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度の計画は、実行可能な具体的な内容となっている。</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、単なる「行事計画」になっていない。</p> <p><input type="checkbox"/> 単年度の事業計画は、数値目標や具体的な成果等を設定することなどにより、実施状況の評価を行える内容となっている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
【判断した理由・特記事項等】	
単年度の計画は実行可能な計画となっており、収支計画も策定されている。又、職員会議等の中で振り返りを行う等、実施状況の評価を行える体制ができています。	
(2) 事業計画が適切に策定されている。	
<p>① 6 事業計画の策定と実施状況の把握や評価・見直しが組織的に行われ、職員が理解している。</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画が、職員等の参画や意見の集約・反映のもとで策定されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 計画期間中において、事業計画の実施状況が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて把握されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画が、あらかじめ定められた時期、手順にもとづいて評価されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 評価の結果にもとづいて事業計画の見直しを行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画が、職員に周知(会議や研修会における説明等)されており、理解を促すための取組を行っている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
【判断した理由・特記事項等】	
年度初めに主任及びリーダー会議で検討し、事業計画を職員会議で集約、反映の基で策定されている。その後、毎月の同様の会議で、実施状況の把握と振り返りをして評価が行われている。	
<p>② 7 事業計画は、子どもや保護者等に周知され、理解を促している。</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容が、子どもや保護者等に周知(配布、掲示、説明等)されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を子ども会や保護者会等で説明している。</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画の主な内容を分かりやすく説明した資料を作成するなどの方法によって、子どもや保護者等がより理解しやすいような工夫を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 事業計画については、子どもや保護者等の参加を促す観点から周知、説明の工夫を行っている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>

<p>【判断した理由・特記事項等】</p> <p>事業計画の主な内容は、ホームページ及びパンフレットに掲載している。子どもには入所プログラムの中で個別に説明している。又、施設内のフロアの掲示板にその都度掲示したり、集合時の話し合いの中で伝えている。一方、保護者には入所時パンフレットを渡し説明している。又、入所後の面会や外出、外泊時及び電話連絡等する中で伝えるように努めているが、社会的養護の特殊性もあり保護者が参加できる行事等は少ない。子どもの治療・支援の更なる促進のためにも家族と協働したイベントや家族参加の機会を設定していく等の前向きな姿勢を讀取ることが出来る。</p>

4 治療・支援の質の向上への組織的・計画的な取組

(1) 質の向上に向けた取組が組織的・計画的に行われている。	第三者 評価結果
<p>① 8 治療・支援の質の向上に向けた取組が組織的に行われ、機能している。</p> <p><input type="checkbox"/> 組織的にPDCAサイクルにもとづく治療・支援の質の向上に関する取組を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 治療・支援の内容について組織的に評価(C:Check)を行う体制が整備されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 定められた評価基準にもとづいて、年に1回以上自己評価を行うとともに、第三者評価等を定期的に受審している。</p> <p><input type="checkbox"/> 評価結果を分析・検討する場が、施設として位置づけられ実行されている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>

<p>【判断した理由・特記事項等】</p> <p>治療・支援の質の向上に向けた取組に関しては、日常のOJTや職員研修の中でPDCAサイクルに基づく取組が行われている。又、評価結果を分析、検討する場が位置づけられ継続した取組ができています。</p>
--

<p>② 9 評価結果にもとづき組織として取り組むべき課題を明確にし、計画的な改善策を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> 評価結果を分析した結果やそれにもとづく課題が文書化されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員間で課題の共有化が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 評価結果から明確になった課題について、職員の参画のもとで改善策や改善計画を策定する仕組みがある。</p> <p><input type="checkbox"/> 評価結果にもとづく改善の取組を計画的に行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 改善策や改善の実施状況の評価を実施するとともに、必要に応じて改善計画の見直しを行っている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
--	--

<p>【判断した理由・特記事項等】</p> <p>各種マニュアルが整備されて職員間で共有され、課題や年間計画に反映されている。今後、継続した改善や計画の見直し等を行うことが望まれる。</p>
--

II 施設の運営管理

1 施設長の責任とリーダーシップ

(1) 施設長の責任が明確にされている。	第三者 評価結果
<p>① 10 施設長は、自らの役割と責任を職員に対して表明し理解を図っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設長は、自らの施設の経営・管理に関する方針と取組を明確にしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任について、施設内の広報誌等に掲載し表明している。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設長は、自らの役割と責任を含む職務分掌等について、文書化するとともに、会議や研修において表明し周知が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 平常時のみならず、有事(事故、災害等)における施設長の役割と責任について、不在時の権限委任等を含め明確化されている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>

<p>【判断した理由・特記事項等】</p> <p>施設長は職務分掌に於いて、自らの役割と責任について文書化すると共に、その責務を果たす中で各種会議や職員、子どもとの対話等の中で表明し、職員への周知が図られている。又、不在時の権限委任等も明確化されている。</p>
--

②	11 遵守すべき法令等を正しく理解するための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、遵守すべき法令等を十分に理解しており、利害関係者(取引事業者、行政関係者等)との適正な関係を保持している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、法令遵守の観点での経営に関する研修や勉強会に参加している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、環境への配慮等も含む幅広い分野について遵守すべき法令等を把握し、取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、職員に対して遵守すべき法令等を周知し、また遵守するための具体的な取組を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

令和5年度子ども家庭庁の創設に伴い、子ども基本法が施行され、「こどもまん中社会」の実現に向けた方針が示された。新たな法令をはじめ、教育基本法、子ども・若者育成支援推進法、子どもの貧困対策推進法等多くの関連法について、令和5年度より、外部から就任された施設長は、現状の把握に努め、積極的な姿勢の基、正しく理解するための取組ができています。

(2) 施設長のリーダーシップが発揮されている。

①	12 治療・支援の質の向上に意欲をもちその取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、治療・支援の質の現状について定期的、継続的に評価・分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、治療・支援の質に関する課題を把握し、改善のための具体的な取組を明示して指導力を発揮している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、治療・支援の質の向上について施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、治療・支援の質の向上について、職員の意見を反映するための具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、治療・支援の質の向上について、職員の教育・研修の充実を図っている。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設長は、職員の模範となるように、自己研鑽に励み、専門性の向上に努めている。	○

【判断した理由・特記事項等】

施設長は、女子の二人部屋に間仕切りカーテンを設置することでプライベートゾーンを確保する取組をしている。更に、令和6年には、子どもの安心・安全を保障するハード面の施設環境を提供するため、男女の浴室の個別化の実現に向けた取組を進めている。

②	13 経営の改善や業務の実効性を高める取組に指導力を発揮している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、人事、労務、財務等を踏まえ分析を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、施設(法人)の理念や基本方針の実現に向けて、人員配置、職員の働きやすい環境整備等、具体的に取り組んでいる。	○
	<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性の向上に向けて、施設内に同様の意識を形成するための取組を行っている。	○
<input type="checkbox"/> 施設長は、経営の改善や業務の実効性を高めるために施設内に具体的な体制を構築し、自らもその活動に積極的に参画している。	○	

【判断した理由・特記事項等】

施設長はトップダウンの指導ではなく、職員の前向きで実効性のある業務姿勢や遂行力を支持・尊重する姿勢でリーダーシップを発揮されている。

2 福祉人材の確保・育成

(1) 福祉人材の確保・育成計画、人事管理の体制が整備されている。	第三者 評価結果
<p>① 14 必要な福祉人材の確保・定着等に関する具体的な計画が確立し、取組が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 必要な福祉人材や人員体制に関する基本的な考え方や、福祉人材の確保と育成に関する方針が確立している。</p> <p><input type="checkbox"/> 治療・支援に関わる専門職(有資格の職員)の配置等、必要な福祉人材や人員体制について具体的な計画がある。</p> <p><input type="checkbox"/> 計画にもとづいた福祉人材の確保や育成が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設(法人)として、効果的な福祉人材確保(採用活動等)を実施している。</p> <p>(社会的養護共通)</p> <p><input type="checkbox"/> 各種加算職員の配置に積極的に取り組み、人員体制の充実に努めている。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【判断した理由・特記事項等】</p> <p>福祉人材の確保や育成については実施されている。但し、育児休暇取得職員の未補充などについては十分とは言えない現状にあり、必要な福祉人材の確保等について具体的な計画の策定が望まれる。</p>	
<p>② 15 総合的な人事管理が行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 法人、施設の理念・基本方針にもとづき「期待する職員像等」を明確にし、職員自らが将来の姿を描くことができるような総合的な仕組みができています。</p> <p><input type="checkbox"/> 人事基準(採用、配置、異動、昇進・昇格等に関する基準)が明確に定められ、職員等に周知されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 一定の人事基準にもとづき、職員の専門性や職務遂行能力、職務に関する成果や貢献度等を評価している。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員処遇の水準について、処遇改善の必要性等を評価・分析するための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 把握した職員の意向・意見や評価・分析等にもとづき、改善策を検討・実施している。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【判断した理由・特記事項等】</p> <p>「期待する職員像」は、「援助指針」の中で明確化しており総合的な仕組みができています。理事長、施設長等が相談の上、理事会にかけ職員面談を行い、一人ひとりの意向を聴く機会を設け、公平性が保たれている。今後、客観的な基準に基づき、人事考課を行うためにも人事基準を定め、トータル的な人事マネジメントを行い、職員の育成に向けた取組が望まれる。</p>	
<p>(2) 職員の就業状況に配慮がなされている。</p> <p>① 16 職員の就業状況や意向を把握し、働きやすい職場づくりに取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員の就業状況や意向の把握等にもとづく労務管理に関する責任体制を明確にしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員の有給休暇の取得状況や時間外労働のデータを定期的に確認するなど、職員の就業状況を把握している。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員の心身の健康と安全の確保に努め、その内容を職員に周知している。</p> <p><input type="checkbox"/> 定期的に職員との個別面談の機会を設ける、職員の相談窓口を施設内に設置するなど、職員が相談しやすいような仕組みの工夫をしている。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員の希望の聴取等をもとに、総合的な福利厚生を実施している。</p> <p><input type="checkbox"/> ワーク・ライフ・バランスに配慮した取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 改善策については、人材や人員体制に関する具体的な計画に反映し実行している。</p> <p><input type="checkbox"/> 福祉人材の確保、定着の観点から、施設の魅力を高める取組や働きやすい職場づくりに関する取組を行っている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【判断した理由・特記事項等】</p> <p>管理職により職員の就業状況や意向の把握等に努めており、職員との個別面談の中で働きやすい職場づくりにも取り組んでおり、総合的な福利厚生も実施されている。今後、改善策等については具体的な計画に反映し、実行に繋げるよう更なる取組が期待される。</p>	

(3) 職員の質の向上に向けた体制が確立されている。

①	17 職員一人ひとりの育成に向けた取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設として「期待する職員像」を明確にし、職員一人ひとりの目標管理のための仕組みが構築されている。	○
	<input type="checkbox"/> 個別面接を行う等施設の目標や方針を徹底し、コミュニケーションのもとで職員一人ひとりの目標(目標項目、目標水準、目標期限)が明確かつ適切に設定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、中間面接を行うなど、適切に進捗状況の確認が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが設定した目標について、年度当初・年度末(期末)面接を行うなど、目標達成度の確認を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

法人のビジョン及び施設の重点課題等に連動した職員一人ひとりの目標が設定され、施設長との個別面談を行う等育成に向けた取組を行っている。

②	18 職員の教育・研修に関する基本方針や計画が策定され、教育・研修が実施されている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設が目指す治療・支援を実施するために、基本方針や計画の中に、「期待する職員像」を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 現在実施している治療・支援の内容や目標を踏まえて、基本方針や計画の中に、施設が職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示している。	○
	<input type="checkbox"/> 策定された教育・研修計画にもとづき、教育・研修が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に計画の評価と見直しを行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 定期的に研修内容やカリキュラムの評価と見直しを行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

職員全体及び各職員の専門性に応じた年間の教育・研修計画が内部、外部毎に策定され、それに基づき実施されている。今後、基本方針等に、職員に必要とされる専門技術や専門資格を明示し、また、定期的な計画の評価と見直しの実施が望まれる。

③	19 職員一人ひとりの教育・研修等の機会が確保されている。	a
	<input type="checkbox"/> 個別の職員の知識、技術水準、専門資格の取得状況等を把握している。	○
	<input type="checkbox"/> 新任職員をはじめ職員の経験や習熟度に配慮した個別的なOJTが適切に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 階層別研修、職種別研修、テーマ別研修等の機会を確保し、職員の職務や必要とする知識・技術水準に応じた教育・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部研修に関する情報提供を適切に行うとともに、参加を勧奨している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員一人ひとりが、教育・研修の場に参加できるよう配慮している。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> スーパービジョンの体制を確立し、職員の専門性や施設の組織力の向上に取り組んでいる。	○

【判断した理由・特記事項等】

年間の研修計画を策定し、定期的に施設内外での研修機会を設定し、一人ひとりの職員が参加する機会を確保するように配慮されている。又、組織内での上司及び同僚によるスーパービジョンやOJT等により、専門性の向上に努めている。

(4) 実習生等の治療・支援に関わる専門職の研修・育成が適切に行われている。		
①	20 実習生等の治療・支援に関わる専門職の研修・育成について体制を整備し、積極的な取組をしている。	b
	<input type="checkbox"/> 実習生等の治療・支援に関わる専門職の研修・育成に関する基本姿勢を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 実習生等の治療・支援の専門職の研修・育成についてのマニュアルが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 専門職種の特性に配慮したプログラムを用意している。	
	<input type="checkbox"/> 指導者に対する研修を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 実習生については、学校側と、実習内容について連携してプログラムを整備するとともに、実習期間中においても継続的な連携を維持していくための工夫を行っている。	○
【判断した理由・特記事項等】		
実習生の受入れ時の心得等マニュアルは整備されているが、コロナ禍の中にあつて実習生の受入れは少ない状況下にある。今後、専門職種の特性に配慮したプログラムの作成等が望まれる。		

3 運営の透明性の確保

(1) 運営の透明性を確保するための取組が行われている。		第三者 評価結果
①	21 運営の透明性を確保するための情報公開が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> ホームページ等の活用により、法人、施設の理念や基本方針、治療・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報が適切に公開されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における地域の福祉向上のための取組の実施状況、第三者評価の受審、苦情・相談の体制や内容について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 第三者評価の受審結果、苦情・相談の体制や内容にもとづく改善・対応の状況について公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 法人、施設の理念、基本方針やビジョン等について、社会・地域に対して明示・説明し、法人、施設の存在意義や役割を明確にするように努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 地域へ向けて、理念や基本方針、施設で行っている活動等を説明した印刷物や広報誌等を配布している。	
【判断した理由・特記事項等】		
施設の理念や基本方針、治療・支援の内容、事業計画、事業報告、予算、決算情報等はホームページ等の活用により、適切に公開されている。又、第三者評価の受審、苦情・相談体制や内容についても公開している。		
②	22 公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等に関するルール、職務分掌と権限・責任が明確にされ、職員等に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)における事務、経理、取引等について内部監査を実施するなど、定期的に確認されている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)の事業、財務について、外部の専門家による監査支援等を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 外部の専門家による監査支援等の結果や指摘事項にもとづいて、経営改善を実施している。	○
【判断した理由・特記事項等】		
施設における事務、経理、取引等について内部監査及び外部の専門家による監査等を実施し、公正かつ透明性の高い適正な経営・運営のための取組ができている。		

4 地域との交流、地域貢献

(1) 地域との関係が適切に確保されている。	第三者 評価結果
<p>① 23 子どもと地域との交流を広げるための取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域との関わり方について基本的な考え方を文書化している。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの個別的状況に配慮しつつ地域の行事や活動に参加する際、必要があれば職員やボランティアが支援を行う体制が整っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 施設や子どもへの理解を得るために、地域の人々に向けた日常的なコミュニケーションを心がけている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子どもの買い物や通院等日常的な活動についても、定型的でなく個々の子どものニーズに応じて、地域における社会資源を利用するよう推奨している。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【判断した理由・特記事項等】</p>	
<p>子ども達が、地域の祭りでの和太鼓演奏、海水浴場や和歌山城の清掃活動等に参加するなど、子どもと地域との交流を広げる取組ができています。又、それぞれの子ども事情やニーズに合った社会体験が出来るよう心掛けた対応に努めている。今後、地域との関わりについて基本的な考え方を文書化し、地域の人々から理解を得るためのコミュニケーション等深めるため、更なる取組が望まれる。</p>	
<p>② 24 ボランティア等の受入れに対する基本姿勢を明確にし体制を確立している。</p> <p><input type="checkbox"/> ボランティア受入れに関する基本姿勢を明文化している。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の学校教育等への協力について基本姿勢を明文化して取り組んでいる。</p> <p><input type="checkbox"/> ボランティア受入れについて、登録手続、ボランティアの配置、事前説明等に関する項目が記載されたマニュアルを整備している。</p> <p><input type="checkbox"/> ボランティアに対して子どもとの交流を図る視点等で必要な研修、支援を行っている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【判断した理由・特記事項等】</p>	
<p>ボランティア等の受入れマニュアルの中で基本姿勢は明文化されている。大学生による学習ボランティア、レクリエーション支援、理美容ボランティア、ドッグセラピーなど、コロナ禍の影響もあり現在は受入れ中止となっているが、多種多様な受入れで子どもの育ちを支える取組ができています。</p>	
<p>(2) 関係機関との連携が確保されている。</p>	
<p>① 25 施設として必要な社会資源を明確にし、関係機関等との連携が適切に行われている。</p> <p><input type="checkbox"/> 当該地域の関係機関・団体について、個々の子どもの状況に対応できる社会資源を明示したリストや資料を作成している。</p> <p><input type="checkbox"/> 職員会議で説明するなど、職員間で情報の共有化が図られている。</p> <p><input type="checkbox"/> 関係機関・団体と定期的な連絡会等を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の関係機関・団体の共通の問題に対して、解決に向けて協働して具体的な取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 地域に適切な関係機関・団体がない場合には、子どものアフターケア等を含め、地域でのネットワーク化に取り組んでいる。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【判断した理由・特記事項等】</p>	
<p>施設として必要な社会資源のリストを作成し、関係機関との連携のもと取組んでいる。措置元である児童相談所とは定期的なカンファレンス及び連絡を取り合っており、入所児童は小中学生のため学校とは連携を密にし、対応に努めている。</p>	

(3) 地域の福祉向上のための取組を行っている。

①	26 地域の福祉ニーズ等を把握するための取組が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が実施する事業や運営委員会の開催、関係機関・団体との連携、地域の各種会合への参加、地域住民との交流活動などを通じて、地域の福祉ニーズや生活課題等の把握に努めている。	○
	(社会的養護共通) <input type="checkbox"/> 施設のもつ機能を地域へ還元したり、地域の関係機関・団体との連携等を通じて、地域の具体的な福祉ニーズの把握に努めている。	○
	(5種別共通) <input type="checkbox"/> 地域住民に対する相談事業などを通じて、多様な相談に応じる機能を有している。	

【判断した理由・特記事項等】

通所機能は実施しておらず、併設している児童家庭支援センターきずながその役割を担って、各種行事への招待やイベントへの参加など、地域の関係者や機関とのネットワークが広がる取組ができています。今後、地域の福祉ニーズや生活課題等に基づく公益的な活動を実施して行くことが望まれる。

②	27 地域の福祉ニーズ等にもとづく公益的な事業・活動が行われている。	b
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいて、法で定められた社会福祉事業にとどまらない地域貢献に関わる事業・活動を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 把握した福祉ニーズ等にもとづいた具体的な事業・活動を、計画等で明示している。	
	<input type="checkbox"/> 多様な機関等と連携して、社会福祉分野のみならず、地域コミュニティの活性化やまちづくりなどにも貢献している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設(法人)が有する治療・支援に関するノウハウや専門的な情報を、地域に還元する取組を積極的に行っている。	
	<input type="checkbox"/> 地域の防災対策や、被災時における福祉的な支援を必要とする人びと、住民の安全・安心のための備えや支援の取組を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

地域のニーズに対応するため、災害時に地域交流ホールやグラウンドを避難場所として提供する等の役割を担っている。中長期的なビジョンと事業計画の中で、子どもクリニックの開設等が明記されており、今後、公益的な事業活動の推進が期待される。

Ⅲ 適切な治療・支援の実施
1 子ども本位の治療・支援

(1) 子どもを尊重する姿勢が明示されている。

第三者
評価結果

①	28 子どもを尊重した治療・支援の実施について共通の理解をもつための取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針に、子どもを尊重した治療・支援の実施について明示し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した治療・支援の実施に関する「倫理綱領」や規程等を策定し、職員が理解し実践するための取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを尊重した治療・支援の実施に関する基本姿勢が、個々の治療・支援の標準的な実施方法等に反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、施設で勉強会・研修を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの尊重や基本的人権への配慮について、定期的に状況の把握・評価等を行い、必要な対応を図っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

理念や基本方針の中で、子どもを尊重した治療・支援の実施、人権の配慮等について職員に共通の理解を図るため、援助指針等で詳細に明文化され周知に努められている。

②	29 子どものプライバシー保護に配慮した治療・支援が行われている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どものプライバシー保護について、社会福祉事業に携わる者としての姿勢・責務等を明記した規程・マニュアル等が整備され、職員への研修によりその理解が図られている。	○
	<input type="checkbox"/> 規程・マニュアル等にもとづいて、プライバシーに配慮した治療・支援が実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 一人ひとりの子どもにとって、生活の場にふさわしい快適な環境を提供し、子どものプライバシーを守れるよう設備等の工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等にプライバシー保護に関する取組を周知している。	○

【判断した理由・特記事項等】

個人情報やプライバシー保護に関するマニュアルを策定し、大舎制の施設環境の中にあつて、きめ細かな治療・支援が行われている。尚、現行の大舎制を一部小規模化し、家庭養護に近い環境になるよう取組ができています。又、大浴場も個別化する等、中・長期的なビジョンと事業計画の中で明記する等支援の充実が取組まれている。

(2) 治療・支援の実施に関する説明と同意（自己決定）が適切に行われている。

①	30 子どもや保護者等に対して治療・支援の利用に必要な情報を積極的に提供している。	a
	<input type="checkbox"/> 理念や基本方針、治療・支援の内容や施設の特徴等を紹介した資料を準備している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を紹介する資料は、言葉遣いや写真・図・絵の使用等で誰にでもわかるような内容にしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設に入所予定の子どもや保護者等については、個別に丁寧な説明を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見学等の希望に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に対する情報提供について、適宜見直しを実施している。	○

【判断した理由・特記事項等】

治療・支援の利用に必要な情報は、入所時ホームページ及びパンフレット、入所プログラムに基づき6日間のオリエンテーションを行う等適切に情報を提供している。又、保護者には児童相談所から施設の説明が行われ、併せて、施設からも入所時の説明をパンフレット等を渡し、丁寧に情報の提供に努めている。入所後も適宜、必要な情報提供を行い、施設見学希望にも応じる等適切に対応している。

②	31 治療・支援の開始・過程において子どもや保護者等にわかりやすく説明している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが自らの課題を可能な限り認識し、施設が行う治療・支援について納得し主体的に選択できるよう、よりわかりやすくなるような工夫や配慮をして説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 治療・支援の開始・過程における支援の内容に関する説明と同意にあたっては、子どもや保護者等の自己決定を尊重している。	○
	<input type="checkbox"/> 治療・支援の開始・過程においては、子どもや保護者等の同意を得たうえでその内容を書面で残している。	○
	<input type="checkbox"/> 意思決定が困難な子どもや保護者等への配慮についてルール化され、適正な説明、運用が図られている。	○

【判断した理由・特記事項等】

入所時に入所プログラム等で子どもと保護者に対して、治療・支援の開始過程においての丁寧な説明を行っている。又、入所後も保護者に面会や電話で様子を伝える等きめ細かな対応ができています。

③	32 治療・支援の内容や措置変更、地域・家庭への移行等にあたり治療・支援の継続性に配慮した対応を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 治療・支援の内容の変更にあたり、従前の内容から著しい変更や不利益が生じないように配慮されている。	○
	<input type="checkbox"/> 他の施設や地域・家庭への移行にあたり、治療・支援の継続性に配慮した手順と引継ぎ文書を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した後も、施設として子どもや保護者等が相談できるように担当者や窓口を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設を退所した時に、子どもや保護者等に対し、その後の相談方法や担当者について説明を行い、その内容を記載した文書を渡している。	○

【判断した理由・特記事項等】

退所児童対応マニュアルの中で退所に向けてのケースワーク、退所決定後のケースワーク、アフターケア等について、各事項毎に対応者を決め、治療・支援の継続性に配慮した対応に努めている。

(3) 子どもの満足の向上に努めている。

第三者
評価結果

①	33 子どもの満足の向上を目的とする仕組みを整備し、取組を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査が定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもへの個別の相談面接や聴取等が、子どもの満足を把握する目的で定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員等が、子どもの満足を把握する目的で、子ども会等に出席している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの満足に関する調査の担当者等の設置や、把握した結果を分析・検討するために、子ども参画のもとで検討会議の設置等が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 分析・検討の結果にもとづいて具体的な改善を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

個別の面談や子ども会に職員が参加する等して、子どもの満足度の把握に努め、それを基に職員間で協議し改善に繋げるよう努力されている。治療・支援の目指すところと子どもの満足とは、必ずしも一致しない面もある中で、出来るだけ子どもの意見を聴く中で、対話を重ねるように努められている。又、都度アンケートの実施等で子どもの更なる満足の向上を目指した取組ができています。

(4) 子どもが意見等を述べやすい体制が確保されている。

①	34 苦情解決の仕組みが確立しており、周知・機能している。	a
	<input type="checkbox"/> 治療・支援の実施等から生じた苦情に適切に対応することは責務であることを理解し、苦情解決の体制(苦情解決責任者の設置、苦情受付担当者の設置、第三者委員の設置)が整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情解決の仕組みをわかりやすく説明した掲示物が掲示され、資料を子どもや保護者等に配布し説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情記入カードの配布やアンケート(匿名)を実施するなど、子どもや保護者等が苦情を申し出しやすい工夫を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容については、受付と解決を図った記録を適切に保管している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情内容に関する検討内容や対応策、解決結果等については、子どもや保護者等に必ずフィードバックするとともに、苦情を申し出た子どもや保護者等のプライバシーに配慮したうえで、公開している。	○
	<input type="checkbox"/> 苦情相談内容にもとづき、治療・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○

【判断した理由・特記事項等】

「苦情解決マニュアル」が整備され且つ、令和5年8月1日付けで苦情申出窓口が設置され、その旨の書面を子どもや保護者に配布し、苦情解決に努める旨を意思表示されている。尚、第三者委員に新たにアドボケイトの職務を加え、子どもの意見形成並びに意見表明の権利を擁護する旨が明記され、役割を担うようにされている。

②	35 子どもが相談や意見を述べやすい環境を整備し、子ども等に周知している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが相談したり意見を述べたりする際に、複数の方法や相手を自由に選べることをわかりやすく説明した文書を作成している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等に、その文書の配布やわかりやすい場所に掲示する等の取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談をしやすい、意見を述べやすいスペースの確保等の環境に配慮している。	○

【判断した理由・特記事項等】

職員に言いにくい事などあれば、玄関に設置してある意見箱に意見など入れ、述べ易い環境を整備している。併せて、入所プログラムの中でも周知に努めている。又、第三者委員の存在と役割及び相談の仕方等について文書を配布し、説明すると共に掲示も行い周知をはかっている。

③	36 子どもからの相談や意見に対して、組織的かつ迅速に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 職員は、日々の治療・支援の実施において、子どもが相談しやすく意見を述べやすいように配慮し、適切な相談対応と意見の傾聴に努めている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見箱の設置、アンケートの実施等、子どもの意見を積極的に把握する取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 相談や意見を受けた際の記録の方法や報告の手順、対応策の検討等について定めたマニュアル等を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、把握した相談や意見について、検討に時間がかかる場合に状況を速やかに説明することを含め迅速な対応を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 意見等にもとづき、治療・支援の質の向上に関わる取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 対応マニュアル等の定期的な見直しを行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

「援助指針」や「みらい生活ノート」で明文化し、意見箱の設置等で子どもの意見を積極的に把握し、治療・支援の質の向上に向けた取組が行われている。個々の入所児童には、それぞれ生活及び心理の担当職員が設定され、特に児童と生活担当者の関係性は濃く、子どもの満足につながる大きな要因ともなっている。

(5) 安心・安全な治療・支援の実施のための組織的な取組が行われている。

第三者
評価結果

①	37 安心・安全な治療・支援の実施を目的とするリスクマネジメント体制が構築されている。	a
	<input type="checkbox"/> リスクマネジメントに関する責任者の明確化(リスクマネジャーの選任・配置)、リスクマネジメントに関する委員会を設置するなどの体制を整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 事故発生時の対応と安全確保について責任、手順(マニュアル)等を明確にし、職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの安心と安全を脅かす事例の収集が積極的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 収集した事例をもとに、職員の参画のもとで発生要因を分析し、改善策・再発防止策を検討・実施する等の取組が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員に対して、安全確保・事故防止に関する研修を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 事故防止策等の安全確保策の実施状況や実効性について、定期的に評価・見直しを行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

リスクマネジメントとして、ヒヤリハット及び事故報告に相当する事態について、職員間で共有し協議を行う等の体制が構築されている。「危機管理マニュアル」、「夜間・緊急時の対応マニュアル」等を策定し対応を図っている。又、設備運営に関して安全管理委員を置き組織的な取組ができている。

<p>② 38 感染症の予防や発生時における子どもの安全確保のための体制を整備し、取組を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 感染症対策について、責任と役割を明確にした管理体制が整備されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 感染症の予防と発生時等の対応マニュアル等を作成し職員に周知徹底するとともに、定期的に見直している。</p> <p><input type="checkbox"/> 担当者等を中心にして、定期的に感染症の予防や安全確保に関する勉強会等を開催している。</p> <p><input type="checkbox"/> 感染症の予防策が適切に講じられている。</p> <p><input type="checkbox"/> 感染症が発生した場合には対応が適切に行われている。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【判断した理由・特記事項等】</p> <p>「危機管理マニュアル」を策定し、感染症予防や発生時における子どもの安全確保体制が整備され、看護師をはじめ職員も高い意識を持って取組ができています。</p>	
<p>③ 39 災害時における子どもの安全確保のための取組を組織的に行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 災害時の対応体制が決められている。</p> <p><input type="checkbox"/> 立地条件等から災害の影響を把握し、発災時においても治療・支援を継続するために「事業継続計画」(BCP)を定め、必要な対策・訓練等を行っている。</p> <p><input type="checkbox"/> 子ども及び職員の安否確認の方法が決められ、すべての職員に周知されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 食料や備品類等の備蓄リストを作成し、管理者を決めて備蓄を整備している。</p>	<p>b</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【判断した理由・特記事項等】</p> <p>毎月1回の災害訓練と避難訓練も毎年実施され、災害時の対応マニュアルも整備され、災害時における子どもの安全確保のための取組が組織的に行われている。又、非常食も3日分(約80人分)災害備蓄庫に確保されている。今後、災害発生時においても、治療・支援を継続するために事業継続計画(BCP)を定め、必要な対策、訓練等を行う事が望まれる。</p>	

2 治療・支援の質の確保

<p>(1) 治療・支援の標準的な実施方法が確立している。</p>	<p>第三者 評価結果</p>
<p>① 40 治療・支援について標準的な実施方法が文書化され治療・支援が実施されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 標準的な実施方法が適切に文書化されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 標準的な実施方法には、子どもの尊重や権利擁護とともにプライバシーの保護に関わる姿勢が明示されている。</p> <p><input type="checkbox"/> 標準的な実施方法について、研修や個別の指導等によって職員に周知徹底するための方策を講じている。</p> <p><input type="checkbox"/> 標準的な実施方法にもとづいて実施されているかどうかを確認する仕組みがある。</p>	<p>a</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
<p>【判断した理由・特記事項等】</p> <p>標準的な実施方法は、「援助指針」として定めて文書化され、子どもの権利擁護やプライバシーの保護に関する基本姿勢が示されている。また、治療・支援に関する施設内外の研修会において、職員間の意識の共有を図るとともに、施設での各担当者会議等において、標準的な実施方法に沿った治療・支援の実施を確認している。</p>	

②	41 標準的な実施方法について見直しをする仕組みが確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 治療・支援の標準的な実施方法の検証・見直しに関する時期やその方法が施設で定められている。	○
	<input type="checkbox"/> 治療・支援の標準的な実施方法の検証・見直しが定期的に行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、自立支援計画の内容が必要に応じて反映されている。	○
	<input type="checkbox"/> 検証・見直しにあたり、職員や子ども等からの意見や提案が反映されるような仕組みになっている。	○

【判断した理由・特記事項等】

標準的な実施方法は、月に1回の主任リーダー会議、職員会議、ケースカンファレンス、子ども会等において、その検証、見直しを実施することにより、職員や子どもからの意見が反映され、必要に応じて自立支援計画の内容にも反映されている。

(2) 適切なアセスメントにより自立支援計画が策定されている。

①	42 アセスメントにもとづく個別的な自立支援計画を適切に策定している。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画策定の責任者を設置している。	○
	<input type="checkbox"/> アセスメント手法が確立され、適切なアセスメントが実施されている。	○
	<input type="checkbox"/> 部門を横断したさまざまな職種の関係職員(種別によっては施設以外の関係者も)が参加して、アセスメント等に関する協議を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画には、子ども一人ひとりの具体的なニーズ、具体的な治療・支援の内容等が明示されている。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を策定するための部門を横断したさまざまな職種による関係職員(種別によっては組織以外の関係者も)の合議、子どもの意向把握と同意を含んだ手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 支援困難ケースへの対応について検討し、積極的かつ適切な治療・支援が行われている。	○

【判断した理由・特記事項等】

入所前のアセスメント資料を基に、インテーク面接を行い、生活職員や心理職員、敷地内に設置している小中学校の分校教員によるアセスメントを反映した自立支援計画を策定している。また、支援困難ケースについては、対応マニュアルを策定し、随時、適切な支援・治療を行っている。

②	43 定期的に自立支援計画の評価・見直しを行っている。	b
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画どおりに治療・支援が行われていることを確認する仕組みが構築され、機能している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の見直しについて、見直しを行う時期、検討会議の参加職員、子どもの意向把握と同意を得るための手順等、組織的な仕組みを定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 見直しによって変更した自立支援計画の内容を、関係職員に周知する手順を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画を緊急に変更する場合の仕組みを整備している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画の評価・見直しにあたっては、標準的な実施方法に反映すべき事項、治療・支援を十分に実施できていない内容(ニーズ)等、治療・支援の質の向上に関わる課題等が明確にされている。	○

【判断した理由・特記事項等】

生活職員や心理職員、敷地内に設置している小中学校の分校教員等によるカンファレンスが、半年に1回実施されている。今後、緊急に自立支援計画を変更する場合の仕組み等の検討が期待される。

(3) 治療・支援の実施の記録が適切に行われている。

①	44 子どもに関する治療・支援の実施状況の記録が適切に行われ、職員間で共有化されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの身体状況や生活状況等を、施設が定めた統一した様式によって把握し記録している。	○
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画にもとづく治療・支援が実施されていることを記録により確認することができる。	○
	<input type="checkbox"/> 記録する職員で記録内容や書き方に差異が生じないように、記録要領の作成や職員への指導等の工夫をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設における情報の流れが明確にされ、情報の分別や必要な情報が的確に届くような仕組みが整備されている。	○
	<input type="checkbox"/> 情報共有を目的とした会議の定期的な開催等、部門横断での取組がなされている。	○
	<input type="checkbox"/> パソコンのネットワークシステムの利用や記録ファイルの閲覧等を実施して、施設内で情報を共有する仕組みが整備されている。	○

【判断した理由・特記事項等】

児童福祉施設専用の、治療・支援等の経過を記録するネットワークシステム「チャイルドノート」を導入し、日々の児童の記録がデータベース化され、組織的な管理が円滑に行われている。必要な情報は、当該システムにより、職員が情報共有でき、交替勤務の際の引継等を含め、情報伝達の漏れがないようにしている。

②	45 子どもに関する記録の管理体制が確立している。	a
	<input type="checkbox"/> 個人情報保護規程等により、子どもの記録の保管、保存、廃棄、情報の提供に関する規定を定めている。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の不適正な利用や漏えいに対する対策と対応方法が規定されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録管理の責任者が設置されている。	○
	<input type="checkbox"/> 記録の管理について個人情報保護の観点から、職員に対し教育や研修が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員は、個人情報保護規程等を理解し、遵守している。	○
	<input type="checkbox"/> 個人情報の取扱いについて、子どもや保護者等に説明している。	○

【判断した理由・特記事項等】

「個人情報取り扱いマニュアル」を作成し、個人情報の保護及び記録の管理に努め、職員会議や子ども会等で個人情報保護の取扱いを周知している。

□

内容評価基準（20項目）

A-1 子どもの最善の利益に向けた治療・支援

(1) 子どもの尊重と最善の利益の考慮		第三者 評価結果
①	A1 一人ひとりの子どもの最善の利益を目指した治療・支援が、総合環境療法を踏まえた多職種連携の取り組みで実践されている。	a
	<input type="checkbox"/> 自立支援計画に、子どもの課題の解決に向けて福祉、心理、医療、教育の連携による総合的治療・支援方針が策定され、支援が行われている。	○
	<input type="checkbox"/> 職員が日々の治療・支援について振り返り、子どもの最善の利益の観点から、必要に応じて助言を受けられる環境や相互研鑽ができる体制が整っている。	○
	<input type="checkbox"/> 個々の子どもに心理治療担当を配置し、必要に応じて個別心理療法および集団によるコミュニケーション活動及び表現活動を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 精神的医療ケアの必要な子どもに対して必要に応じて、児童精神科医等の診療を実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 重篤なケースについては、入院治療が必要になる場合に備え、外部の医療機関と連携し、必要に応じて話し合い等を行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

入所児童は、心理治療担当者により、原則週に1回（45分）のセッションで、セラピー・カウンセリングを受けている。また、2名の嘱託の児童精神科医により、それぞれ月2回の相談体制がとられ、職員も参加してケースカンファレンスを行った後、診察を実施している。

②	A2 子どもと職員との間に信頼関係を構築し、生活体験を通して発達段階や課題を考慮した支援を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもから相談を受けたり生活場面でのことについて、個別に話し合ったりする機会や一緒に活動する時間を確保している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設生活において多種多様な生活体験(創作活動など)を通して、ものごとを広い視野で具体的、総合的にとらえる力や、豊かな情操が育まれるような活動が組み込まれている。	○
	<input type="checkbox"/> 個々の子どもの発達段階や課題に応じて、日課は出来るだけ柔軟に対応している。	○
	<input type="checkbox"/> つまずきや失敗の体験を大切に、行動上の問題等があった場合も背景にある心理的課題の把握に努め、自己を向上発展させるための態度が身に付けられるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 問題の解決に当たって、謙虚に他から学び、他と協力していける力量や態度を形成できるようグループ活動などを取り入れ支援している。	○

【判断した理由・特記事項等】

一人ひとりの子どもに担当職員を定め、子どもと一緒に外出するなどの機会を通じて、担当職員を中心とした信頼関係の構築に努めるとともに、定期面接ガイドラインを作成し、子どもの個別性に十分な配慮を行っている。また、和太鼓やスポーツなどの生活体験を通じて、子どもの発達段階や課題把握に努めている。

③	A3 子どもの発達段階に応じて、さまざまな生活技術が身に付くよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 大人と一緒に買物をする体験、一人で買物をする体験などを通して、経済観念や店員とのやり取りなど地域生活に必要なスキルが身につくよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 小遣いの用途については、子どもの自主性を尊重し、不必要な制限を加えず、計画的な使用等金銭の自己管理ができるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 発達段階に応じて、電話の対応、ネットやSNSに関する知識などが身につくように支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 地域での生活を見据えて、発達段階に応じて一人での受診や、市役所、図書館、郵便局などの公共機関、交通機関を利用するなど、さまざまな生活技術を学ぶプログラムを実施している。	○

【判断した理由・特記事項等】

職員とともに、買物や自転車での地域の散策、図書館でカードを作成して本を借りたり、電車で大阪へ行くなど、様々な生活体験の支援をしている。小遣いは全額施設で預かっているが、子どもによる金銭の自己管理を支援している。また、SNSの正しい使い方の学習会を実施している。

④	A4 子どもに暴力・不適応行動などの行動上の問題があった場合には、適切に対応している。	a
	<input type="checkbox"/> 行動上の問題がある子どもについては、訴えたいことを受け止めるとともに、問題となる行動を観察・記録し、誘引や刺激等の要因、人的・物的環境との因果関係を分析し治療・支援を行うとともに、自分の意思を伝えるための適切な方法を学ぶ機会を設けている。	○
	<input type="checkbox"/> 行動上の問題のある子どもについて、その特性等をあらかじめ職員間で情報の共有化をはかり連携して対応できるようにしている。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもを心身を傷つけずに対応するとともに、周囲の子どもの安全を図っている。	○
	<input type="checkbox"/> 自傷他害の危険性が極めて高いと判断されるなど、子どもの安全確保等のために他に取るべき方法がなく、子どもの最善の利益になる場合に限り、マニュアルに基づいて行動等の制限が最小限の範囲で行われ、その記録が残されている。	○
	<input type="checkbox"/> 行動等を制限するケアについて、具体的な例を示して職員に周知するとともに、子どもに知らせ、子どもが納得できない場合、苦情解決制度やその他の方法を用いて改善を求めたり意見を述べることを知らせている。	○

【判断した理由・特記事項等】

「特に対応を困難とする児童に対する支援マニュアル」や、「自室対応マニュアル」「暴力・いじめ等児童の人権侵害防止と対応マニュアル」を作成し、児童の安全確保や、児童の動向把握・見守りの徹底を行うとともに、当事者の児童と向き合い、児童の問題行動への理解を深めさせ、本来の自己成長の道筋を、一緒に見出せるよう取り組んでいる。

(2) 子どもの意向への配慮や主体性の育成

①	A5 日常生活のあり方について、子ども自身が自分たちのこととして主体的に考えるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが自分および自分たちの生活がより良くなるように考える機会(個人面談、子ども会など)をさまざまに用意している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 活動、行事等の参画について、子ども一人ひとりの選択を尊重し、自発的な参加となるように支援し、日常生活を含め行事等のプログラムに追われることなく、ゆとりある生活が過ごせるよう配慮している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子ども自身が自分たちの生活全般について、自主的・主体的な取組ができるような活動(施設内の子ども会、ミーティング等)を実施し、子どもの自己表現力、自律性、責任感などが育つよう、職員は必要な支援をしている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもが主体的に小集団活動、行事の企画・運営に関わることができる。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 活動で決定した要望等について、施設や職員は可能な限り応えている。	<input type="checkbox"/>

【判断した理由・特記事項等】

子どもが中心になり、主体的に話し合う場として子ども会を設け、子ども同士の交流を図り、多様な活動に参加できる機会を設けるとともに、子ども自身が自らの気持ちをどこにあるかを確認して、相手に伝え、相互に話し合える場に行き届いている。また、定時面接では、子どもの意見を汲み取る姿勢で、子どもの理解力に応じた配慮を行い、日常のケアに活かしている。

②	A6 子どもの協調性を養い、他者と心地よく過ごすためのマナーや心遣いができるように支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 施設のルール、約束ごとについては、話し合いの場が設定されており、必要に応じて変更している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 社会生活の規範等守るべき約束ごとを理解できるように子どもに説明し、それらを尊重した行動をとるよう支援している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 外出や買い物など社会的ルールを習得する機会を設けている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 普段から、職員が振る舞いや態度で模範を示している。	<input type="checkbox"/>

【判断した理由・特記事項等】

「みらい生活ノート」を作成し、その中で、施設内でのルールをわかりやすく説明し、「子ども会」を快適に生活し、互いに育ちあえるための話し合う場として紹介している。また、スポーツを通じ、ルールやマナー、協調性や自立する力を育むとともに、スーパーで買い物をし、レジでお金を払う経験などの、社会的ルールを学ぶ支援を行っている。

(3) 子どもの権利擁護・支援

①	A7 子どもの権利擁護に関する取組みが徹底されている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもの権利擁護について、施設としての基本的な考え方や方針が明示され、それに基づく規程・マニュアル等が整備され、職員の理解が図られている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもに権利擁護に関する取組が周知され、規程・マニュアル等にもとづいた治療・支援が実施されている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもとの関わりが得られない親の対応に、適切な親権の行使として未成年後見制度などの活用を視野に入れた支援を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 権利擁護に関する取組について職員が具体的に学習や検討する機会を定期的に設けている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 権利侵害の防止と早期発見するための具体的な取組を行っている。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもや保護者等の思想や信教の自由を保障している。	<input type="checkbox"/>
	<input type="checkbox"/> 子どもの保護のために、児童虐待防止法12条の「面会等の制限等」を適切に行っている。	<input type="checkbox"/>

【判断した理由・特記事項等】

「援助指針」や「みらい生活ノート」、「子どもの権利ノート」やアドボケイトなどの規定やマニュアルを作成し、職員会議や職員研修において、職員への理解を深めているとともに、施設の人権擁護委員が、職員に対する権利擁護の学習や検討機会を設けている。

②	A8 子どもに対し、権利について正しく理解できるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 定期的に子どもの状態に応じて権利についての理解を深めるよう、権利ノートやそれに代わる資料を使用して日常生活の中で起こる出来事を通して、守られる権利について子どもたちに説明している。	○
	<input type="checkbox"/> 日々の生活や行事等で、子どもが助け合い、認め合い、協力し合い、感謝し合う態度を促進するよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設内の子ども間の暴力、いじめ、差別などの問題の発生予防のために、施設内の構造、職員の配置や勤務形態のあり方についても点検を行うとともに、起こった場合の早期対応について子どもや職員に周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 施設だけでは暴力やいじめに対する対応が困難と判断した場合には、児童相談所の協力を得ながら対応している。	○

【判断した理由・特記事項等】

子どもの状況に応じて、子どもに「子どもの権利ノート」の説明や、第三者委員によるアドボケイトなどの利用支援を行っている。また、日常の生活や行事の中で、挨拶や感謝の示し方などの、ソーシャルスキルの向上を促している。「暴力・いじめ等児童の人権侵害帽子と対応マニュアル」を作成し、子どもへの権利侵害に対し、職員が迅速かつ適切に対応できるよう取り組んでいる。

(4) 被措置児童虐待の防止等

①	A9 子どもに対する不適切なかかわりの防止と早期発見に取り組んでいる。	a
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりについて、具体的な例を示し、職員に徹底している。	○
	<input type="checkbox"/> 会議等で取り上げる等により不適切なかかわりが行われていないことを確認している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止の視点から、職員体制の見直し等の検討・取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりの防止について、具体的な例を示して、子どもに周知している。	○
	<input type="checkbox"/> 不適切なかかわりがあった場合の対応方法等を明文化している。	○
	<input type="checkbox"/> 被措置児童等虐待の届出・通告制度について対応マニュアルを整備し、研修会などで職員に周知・理解をはかっている。	○

【判断した理由・特記事項等】

「被措置児童等虐待（施設内虐待）防止マニュアル」を作成し、不適切な関わり例を具体的に示し、虐待リスクのある養育環境や子ども言動の捉え方を職員の共通認識とするとともに、リスク回避のための具体的な対策を明示している。また、虐待防止に向けた職員研修や、ヒヤリハットの事例の分析・検討を組織的に実施するとともに、併せて、被措置児童等虐待の届出・通告制度の、職員への周知・理解を図っている。

A-2 生活・健康・学習支援

(1) 食生活

①	A10 食事をおいしく楽しく食べられるよう工夫し、栄養管理にも十分な配慮を行っている。	a
	<input type="checkbox"/> 子どもが日々の食生活に必要な知識及び判断力を習得し、基本的な食習慣を身につけることができるよう食育を推進し、皆と一緒の食卓で楽しく食べられることを目指して一人で食べることから始めるなど、プロセスを踏むことが保障されている。	○
	<input type="checkbox"/> 温かいものは温かく、冷たいものは冷たくという食事の適温提供に配慮している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの年齢や子どもの体調、疾病、アレルギー等に配慮した食事を提供している。	○
	<input type="checkbox"/> 食に関する課題のある子どもへの具体的な取組を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 陶器の食器等を使用したり盛りつけやテーブルの飾りつけの工夫など、食事をおいしく食べられるように工夫している。	○
	<input type="checkbox"/> 定例的に子どもの嗜好や栄養摂取量を把握し、献立に反映させ、好き嫌いをなくす工夫や偏食支援については、無理が無いよう配慮し実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの発達段階や課題に応じて食事の準備、配膳、食後の後片付けなどの習慣や簡単な調理など基礎的な調理技術を習得できるよう支援している。	○
	<input type="checkbox"/> 郷土料理、季節の料理、伝統行事の料理などに触れる機会を持ち、食文化を継承できるようにしたり、外食の機会を設け、施設外での食事を体験させている。	○

【判断した理由・特記事項等】
給食委員会が設置され、「食物アレルギー対応マニュアル」も作成し、栄養士により適切な栄養管理がなされており、子どものリクエストメニューも実施されている。食事時間は、職員も一緒に食事をするとともに、食堂のテーブルは、男女別年齢別に席が決められ、テーブルマットにシールや切り絵などを挟むなど楽しく食事をしている。また、調理実習として、献立から食材の買い物、調理、食器の片付けまでを子どもに体験させるとともに、子どもの誕生日には、「お誕生日外食」を実施している。

(2) 衣生活

①	A11 子どもが衣習慣を習得し、衣服を通じて適切に自己表現できるように支援している。	a
	□気候、生活場面、汚れなどに応じた選択、着替えや衣類の整理、保管などの衣習慣を習得させている。	○
	□発達段階に応じて、整理整頓、洗濯やアイロンがけ、衣類の補修等、子ども自身でできるように支援している。	○
	□発達段階や好みに合わせて子ども自身が衣服を選び、購入できる機会を設け、個々の収納スペースを確保するなど、「自分の服である」という所有感を持てるようにしている。	○
	□毎日取り替える下着や、汚れた時などに着替えることができる衣類が十分に確保され、常に衣服は清潔で、体に合い、季節に合ったものが着用されるよう提供している。	○
	□発達段階や課題に応じて、TPOに合わせた服装や自己表現ができるよう配慮している。	○

【判断した理由・特記事項等】
子どもは、職員と一緒に買い物に出かけ、衣類を購入しておしゃれを楽しんでいる。子どもの衣類は、個々の収納スペースを確保して管理され、高学年の子どもは自分で洗濯を行って洗濯物を片付け、制服のアイロンがけも自分でできるよう支援している。

(3) 住生活

①	A12 居室等施設全体を、生活の場として安全性や快適さに配慮したものにしている。	a
	□居室は、自分の空間であることを認識する場であるとともに、発達段階や課題に合わせた安心できる空間となっており、リビングスペース等くつろげる空間を確保するように努めている。	○
	□子どもの年齢や発達状況にあった、空間や家具、生活機材が用意されている。	○
	□必要に応じて、冷暖房設備を整備している。	○
	□居室の清掃や補修など、施設内外の保健的環境の維持及び向上に努めている。	○
	□防犯のためのオートロックや防犯カメラなどを設置している。	○

【判断した理由・特記事項等】
居室は、男女別にスペースの区割がなされ、4人部屋、2人部屋、1人部屋があるが、年齢が高い子供は1人部屋を利用できるようにし、女子の2人部屋には間仕切りカーテンを設けるなど、子どもの私的な空間となるよう配慮されている。また、令和3～4年度に、洗面台や静養室、ベッドやドア、浴室の天井や壁などの大規模修繕を行うとともに、感染症対策別棟「こころ」を新設し、隔離療養だけでなく、親子面会や音楽療法など多目的に活用している。

②	A13 発達段階に応じて居室等の整理整頓、掃除等の習慣が定着するよう支援している。	a
	□居室の整理・整頓、掃除の習慣や洗濯、ふとん干し、各居室のごみ処理などの生活習慣を身につけられるよう支援している。	○
	□戸締り、施錠の習慣や、電灯、エアコンなどの操作を身につけられるように支援している。	○
	□自分の部屋や共有空間についての様々な工夫について子どもの意見を取り入れている。	○
	□掃除機や洗濯機、ドライヤーや電気髭剃り等の生活に関わる機器の使用に配慮している。	○
	□建物・設備の軽度な破損について、簡単な修理を体験できるように配慮している。	○

【判断した理由・特記事項等】
廊下などの共用スペースは、職員が清掃しているが、下校後毎日、簡単な居室の掃除や、週に一度の登校前の布団干しが習慣化している。また、日常生活の中で、掃除機や洗濯機、アイロンやドライヤーなどの生活用機器の操作支援を行っている。

(4) 健康と安全

①	A14 発達段階に応じて、身体の健康（清潔、病気、事故等）について自己管理ができるよう支援している。	a
	□子どもの発達段階や課題に応じて、常に良好な健康状態を保持できるよう、睡眠、食事摂取、排泄等の状況を職員が適切に把握している。	○
	□洗面、歯磨き、入浴時に体や髪を洗うことなど清潔を保つための支援を行っている。	○
	□子どもが自分の体調について注意を払うように支援し、体調について相談しやすいように努めている。	○
	□子どもの発達段階や課題に応じて、危険物の取扱いや危険な物・場所・行為から身を守るための支援を行っている。	○
	□子どもの交通事故防止など、様々な危険から身を守るため、交通ルールや外出時の注意点、緊急時の対応の仕方等について日頃から子どもに教え、準備をしている。	○

【判断した理由・特記事項等】

一人ひとりの子どもの担当職員が、日常生活の中で、体調を注意深く観察して、「チャイルドノート」に記録するとともに、洗面や歯磨き、入浴等の生活習慣を身に着ける支援を行っている。また、日頃のマスク着用や検温、うがい・手洗いなどを励行するとともに、外出時の安全確保のため、交通ルール・マナーなどの学びを支援している。

②	A15 医療機関と連携して一人ひとりの子どもに対する心身の健康を管理するとともに、異常がある場合は適切に対応している。	a
	□子どもの平常の健康状態や発育・発達状態を把握している。	○
	□地域の医療機関との連携により、必要な受診に即応できる体制がある。	○
	□健康上特別な配慮を要する子どもや服薬管理の必要な子どもについては、医療機関と連携しながら服薬や薬歴のチェックを行っている。	○
	□薬物の管理及び服薬の手順を施設として定めている。	○
	□受診や服薬が必要な場合、子どもがその必要性を理解できるよう、説明している。	○
	□様々なアレルギーへの対応や、救命救急対策などについて組織的に行っている。	○

【判断した理由・特記事項等】

看護師を中心に、生活職員と連携しながら、子どもの健康管理や発達状態を把握し、「チャイルドノート」を活用して、健康情報を共有し、病気等の早期発見に努めている。また、服薬の管理は看護師が行い、「危機管理マニュアル」を作成して、疾病、感染症時の速やかな受診を図るとともに、感染症対策別棟「こころ」を新設して、感染症発生時の隔離療養が可能となっている。

(5) 性に関する支援等

①	A16 子どもの年齢・発達段階等に応じて、性をめぐる課題に関する支援等の機会を設けている。	a
	□発達段階や課題に応じて性に関する支援の基本的な考え方、方針を定めている。	○
	□性被害、性加害など性に課題のある子どもに対する支援を自立支援計画をもとに行っている。	○
	□年齢、個々の状況、発達段階に応じて、性をめぐる諸課題について支援している。	○
	□性をめぐる不適切行動を予防する取組をしている。	○
	□子ども間の性的加害・被害を把握し適切に対応している。	○

【判断した理由・特記事項等】

性教育委員会を設置し、児童が、性の正しい知識を持ち、性問題の発生予防に取り組むとともに、性教育の基礎となる研修を実施している。また、「被措置児童間の性的暴力等事案への対応マニュアル」を作成し、子ども間の性的暴力等の事案を未然に防ぐとともに、「性問題緊急対応マニュアル」を作成し、初期対応の手順を定め、児童相談所との円滑な連携を図っている。

(6) 学習支援、進路支援等

①	A17 学習環境の整備を行い、学力等に応じた学習支援に取り組み、「最善の利益」にかなった進路の自己決定ができるよう支援している。	a
	<input type="checkbox"/> 常に子ども個々の学習に対する構え、学力を把握し、それらに応じた個別的な学習支援を行っている。	○
	<input type="checkbox"/> 施設の子どものための分級や分校などの学校教育が用意され、日々の子どもの状況の変化等に関する情報が、学校・施設間で確実に伝達できるシステムが確保され、個々の子どもに対する生活支援、学習支援及び進路支援等を相互に協力して実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 静かに落ち着いて勉強できるように個別スペースや学習室を用意したり、学習支援のため、ボランティアの協力を得るなどの配慮をしている。	○
	<input type="checkbox"/> 進路選択に当たって、保護者等、学校、児童相談所の意見を十分聞くなど連携している。	○
	<input type="checkbox"/> 学校で生じた子どもの行動上の問題に対しては、学校に協力して対応し、ケースカンファレンスには原則として施設と学校の担当者が参加して検討している。	○
	<input type="checkbox"/> 退所後に通学する学校との連携が適切にとられている。	○

【判断した理由・特記事項等】

入所している児童のほとんどが、同一敷地内の分校へ通学しており、職員と教員は、子どもの情報共有が容易である。また、自立支援計画に、学校側の記載欄も設けられ、月4回の児童精神科医によるカンファレンスにも、施設職員だけでなく、教員も参加している。学習支援については、中学生を対象に、週2回民間の学習塾講師による塾学習を実施している。退所後の支援は、併設の児童家庭支援センターと連携して行われている。

A-3 通所支援

(1) 通所による支援

①	A18 施設の治療的機能である生活支援や心理的ケアなどにより、通所による支援を行っている。	評価外
	<input type="checkbox"/> 様々な通所プログラムを策定し、子どもの自立支援を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 在宅の子どもの生活実態を的確にとらえ、それに基づき適切な支援を行っている。	
	<input type="checkbox"/> 在宅の子どもや家族の支援として通所支援を実施している。	
	<input type="checkbox"/> 必要に応じて訪問による支援を実施している。	

【判断した理由・特記事項等】

A-4 支援の継続性とアフターケア

(1) 親子関係の再構築支援等

①	A19 施設は家族との信頼関係づくりに取り組み、家族からの相談に応じる体制を確立し、家族関係の再構築に向けて支援している。	b
	<input type="checkbox"/> 施設の基本方針等に、家族への支援や家族療法等に関する基本的な考えや姿勢が示されている。	
	<input type="checkbox"/> 個々の子どもに家族担当を設け、日常的な連絡や気軽な相談の窓口として活用できるよう案内し、子どもの日常生活の様子や学校、地域、施設等の予定や情報を定期的に家族に伝えている。	○
	<input type="checkbox"/> 家庭支援専門相談員を独立した専門職として配置し、その役割を明示している。	
	<input type="checkbox"/> 子どもと家族の関係の再構築、家族再統合が可能となるように、児童相談所と協力して親子関係の修復や保護者等の養育力の向上のためのプログラムを継続的に実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 子どもの家族との交流について、子どもの意思を尊重し、面会、外出、一時帰宅については、児童相談所等と協議し、個別性に配慮しながら、一定のルールや基準を定めて実施している。	○
	<input type="checkbox"/> 親子が必要な期間一緒に過ごせるような設備を施設内に設けて、家族支援の趣旨に沿った活用がなされている。	○

【判断した理由・特記事項等】

施設として、面会、外出、一時帰宅のルールを定めるとともに、児童相談所や併設している児童家庭支援センターと連携して、相談、面接等を行っている。また、親子が必要な期間一緒に過ごせるスペースと別棟の「こころ」を設置し、家族関係の再構築を支援している。今後は、家庭支援専門員の専任化に取り組むことを期待したい。

②	A20 子どもが安定した生活を送ることができるよう退所後の支援を行っている。	a
	□通所機能や外来機能を利用して、退所後の支援を継続して行っている。	
	□退所後何年経っても施設に相談できることを伝えている。	○
	□退所者の状況の把握に努め、記録している。	○
	□地域の関係機関と連携し、退所後の生活の支援体制の構築に努めている。	○

【判断した理由・特記事項等】

退所時のマニュアルを作成し、退所後の支援手順を定め、家庭や里親、市町村や地区の相談支援センター等に繋いでおり、退所後の相談窓口も設置している。また、アフターケアは、施設に併設している児童家庭支援センター「きずな」が中心となり、施設職員と連携して行っており、退所後の子どもや家族のニーズに応じて、施設職員も支援している。